

留学報告書 タイ

モンクット王ラカバン工科大学



学部学科:	工学研究科 電気電子工学専攻	留学時学年:	1年
期 間:	2024年8月6日 ~ 2024年9月5日		
	短期	計1ヶ月	

[1] 参加した語学コースの時間数/科目名(受講科目・複数可)

- ・授業時間数: 研究のため任意(本人次第)
- ・科目名: 研究

時間	月	火	水	木	金	土	日
例)9時~13時	○	○	○	○	○	○	Free
特になし							

[2] 授業内容について教えてください。

(クラス人数、国籍割合、担当の先生、授業方法、使用教材等)

研究室のメンバーと研究について話し合い、作業を進める。国籍は基本タイ。

[3] 課外活動・研修旅行・余暇の過ごし方について教えてください。

土日は自由に行動できるため、タイにある世界遺産を観光し、文化を享受しに行った。また、タイの学生と交流して街に遊びに行った。ボランティア活動としては、タイの学生たちと一緒に日本語を学び教えるなどした。

[4] 派遣先でよく使った施設について教えてください。(図書館、学生会館、スポーツ施設等)

ジム、食堂、セブンイレブン

[5] 宿舎(寮やホームステイ)での生活について教えてください。

部屋: 1部屋 2人で使用

様子: 新しく建てられた寮であったため、一か月間不自由なく過ごせた。セブンイレブンが寮の目の前にあり、寮の下には雑貨屋があった。また少し歩いたところにスーパーもあった。

[6] 留学中に楽しかったこと、苦労したことを教えてください。

● 楽しかったこと:

異文化を享受できるという点において、留学は最適解であると考えます。留学先では我々の生活の補助をする生徒さんがいて、わからないことはその人たちに聞き、東海大学の職員さん(教授)にも聞けるため不自由なく過ごすことが出来た。そのような過程で一番楽しかったことは、現地の人とのコミュニケーションである。英語が話せない人でも翻訳機を使うことによって一緒に遊ぶことが出来た。これは、現地の言語を解さないと楽しめないという固定観念を覆す素晴らしい発見であった。もう一つは価値観の拡張である。日本で当たり前には享受していることが他国でも通用するとは限らない。その実、タイとは食文化や生活様式の観点で全く違った。そのような乖離があっても、郷に入れば郷に従うが如く、恭順しなければならない。以上、2点が留學生活において楽しかったことである。

● 苦労したこと:

苦労したことに関しては、食事についてである。楽しかったことの一つに価値観の拡張といったが、慣れ親しんだ日本食を手放すことは私にとって苦労した。味や匂いなど、すべてにおいて日本と異なっており、できるだけ日本を感じることが出来る店を探すほどに苦戦を強いられた。しかし、今となっては辛い物を摂取してもほとんど耐えられるようになった。そして、辛さの先にある旨味という境地にたどり着くことができ、世界が広がった。

[7] 留学の成果について教えてください

1) 語学力の向上:

日本に帰ってから留学生の方と話した際に、英語が比較的すらすら出てくるようになった。

2) 専門知識の向上:

自分の研究分野について多角的に俯瞰して考察できるようになった。

3) 自己成長など

挑戦するという点においては著しい成長を感じた。

[8] 来年度に留学を希望する学生へのアドバイスをお願いします！

価値観を広げるという行為に関して、留学に比肩するものはないと考えております。酸いも甘いも知ることが出来るので、侃侃諤諤と意見を交わせるようにもなります。存分に楽しんでください！

[9] 留学に関する費用の総額について内訳を教えてください。

項目 ※詳しく記入して下さい	金額(当時の日本円)
渡航費(旅行会社に支払った経費)	0円
授業料以外の諸経費(教材費・課外活動・保険料等)	0円
私生活における諸経費(食費・交通費・洗濯費等)	7万円
現地からの奨学金がある場合	0円
お土産代や個人的な買い物	1万円
その他()	
留学に関する費用の総額	8万円











